

『学習する楽しさや成就感を味わわせる学習指導の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 基礎学力の定着を図るとともに、体験活動を取り入れた学習を積極的に進め、児童の学習意欲を高めます。
- ・ 地域の人材や教材を活用したり、外部の専門家による授業を行ったりして、児童の興味関心を高めます。
- ・ 校内現職教育の充実により、教師の授業力を高め、個に応じた指導の徹底を図るとともに、活力ある授業を展開します。

2 内容

(1) 体験活動の充実

地域の方々の協力を得、味噌造り体験（3年生）や七宝焼き作り（4年生）、田植え・稲刈り（5・6年生）、町探険（1～3年生）、昔遊びの会（1年生）等、地域教材を活用した多様な体験活動により、地域の伝統とそこで働く人びとの素晴らしさを知ることができました。



【5・6年生 田植え体験】

(2) 外部機関の活用

「パピートーク」（5年生）や福祉実践教室（4～6年生）等、ゲストティーチャーによる専門家ならではの授業を行うことで、児童の興味関心を高めると共に、視野を広げました。防災教室（全学年）では、昨年度の反省をもとに学年に合ったプログラムに改良し、体験活動を通して防災に対する意識を高めることができました。

(3) 指導力の向上

外部講師を招聘し、現職教育を行いました。英語教育では、ゲームやワークショップを実際に体験しながら、教科化を見据えたすぐに活用できる手法を学びました。道徳教育（2回）では、講師の授業を参観し、その後、今後の「考え議論する授業づくり」について研修を行いました。生徒指導等では、児童理解と保護者対応について研修を深めました。

3 評価

- ・ 地域の方々の協力により、伝統的な産業の体験や農業体験をすることができ、児童の郷土に対する関心を高めることができました。また、それらの体験を通して、関わっていただいた方々の好意にふれることができたことも、児童にとって心豊かな経験となりました。
- ・ 外部講師による専門的な授業により、児童の知的好奇心が高まり、視野を広げることへつながりました。福祉・防災など、将来にわたって大切にしていきたい分野において、知識のみならず、体験を通して学ぶことができました。
- ・ 学習指導要領の改定による外国語活動や道徳の教科化に対応する研修を行うことで、教員の意識の向上につながりました。

4 課題

学習する楽しさを味わわせるために、「学び会う」活動を大切にし、学基礎学力の向上に努め、どの子にも分かる授業を目指していきたいと思えます。

『豊かな心とたくましい体を育む教育活動の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ なかま班を中心に日常の活動や学校行事に取り組む中で、異年齢交流の充実を図り、その中で思いやりと感謝の心を育むとともに、児童の自尊感情を高めます。
- ・ 異年齢交流活動の一環として行っている遊びのなかに、施設や用具を活用した動きを取り入れることで、体力向上を目指すとともに、運動の生活化を図ります。また、体力向上や水難事故防止のため、泳力向上を目指します。
- ・ 「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業」に取り組むなかで、歯と口の健康を考え、健康な生活を送ることができる児童の育成を目指します。

2 内容

(1) 心の交流の推進

異年齢で構成した「なかま」を核として、よりよい人間関係を育成するため、遊びに特化した週2回のなかま活動を中心に、なかま遠足やなかま班を基本とした運動会、「秋竹カーニバル」「ウィンターフェスティバル」などをさらに充実させました。司書職員と相談し、読み聞かせにも活用できる絵本を低学年図書室に配本するなど、環境整備を進めました。



【なかま遠足】

(2) 泳力向上の取り組み

個人差が大きくなる中学年を対象として、水泳の特別講師を招聘して特別水泳授業を行うことで、一人一人の泳力の向上を図りました。また、7月11日・12日の2日間集中して指導してもらうことによって、その後の指導の効果が上がりました。

(3) 歯と口の健康づくりの推進

保健指導や保健学習において、歯や口腔について興味関心をもつように資料や指導法を工夫し、系統的な指導を行いました。生涯にわたって自分の歯や口腔の健康を大切にしようとする意欲を高めるために、チェックシートを活用し、家庭と連携し良い生活習慣が身につくよう取り組みました。

3 評価

- ・ なかま活動や児童会主催の集会活動では、リーダーを中心に協力して活動することができました。高学年は、下の学年の思いを大切にしながら活動し、その中で高学年はリーダーとしての思いやりと責任感を高め、自尊感情や自己有用感を育むことができました。また、低・中学年は高学年への感謝の気持ちをもち、やがては自分たちがこの活動の中心となるのだという自覚を育むことができています。
- ・ 特別水泳授業により、水泳に対する苦手意識を取り除くと同時に、正しい泳法を身に付けさせることができました。
- ・ 家庭との連携が深まるとともに、自分の歯の状態を理解し、自分の歯に合った歯磨きをする姿が見られるようになりました。

4 課題

本校の特色であるなかま活動の意義を、PDCAサイクルで再検証し、すべての学年の児童が自己有用感を得られるよう、それぞれの学年が主体的に参加できるよう指導を進めていく必要があります。

『ふれあいを大切にしたい体験活動の充実』

秋竹小学校

1 目的

- ・ 自然の恵みに感謝する気持ちを育み、命あるものの大切さを知らせるとともに規律ある集団生活を通して、責任を果たし協力する心を育みます。
- ・ 一人一人が自らの役割を自覚し、積極的にその責任を果たす中で、協働することの喜びを味わわせます。
- ・ 自分の思いを表現することの心地よさを味わわせ、よりよい自己表現をしたいという意欲を高めるとともに、表現力の向上を目指します。

2 内容

(1) 心の交流の推進

野外学習（4・5年生）では、春日井の自然の中での生活を通して自然に親しみ、自然の素晴らしさや厳しさを体験することで、なかまとの心の交流を図りました。キャンプカウンセラーに支援を依頼したことで、子どもたちへのサポートを充実させることができました。小中交流の芸術鑑賞会では、生の演奏を聴くことができる貴重な機会であり、また、中学生との合唱交流をすることを通して、中学校進学に対して前向きな気持ちをもつことができました。



【4・5年生 野外学習】

(2) 自然とふれあう活動の推進

花壇等の環境整備を行い、学年の発達段階に応じて、植物の栽培活動をしたことで、自然の恵みや生命の不思議を体験することができました。

3 評価

- ・ 野外学習に2名のキャンプカウンセラーを配置しました。その結果、指導の目が行き届くので、ウォークラリー、キャンプファイヤー等の活動にグループで伸び伸びと取り組ませることができ、安全に充実した活動を行うことができました。
- ・ 栽培活動を通して自然を慈しむ気持ちを高め、自然の素晴らしい営みに気づくことができました。また、自分で育てた野菜を収穫し、調理して味わうこともできました。

4 課題

野外学習のように一緒に活動するのではなくても、各学年の活動につながりをもたせて、より学習効果が上がるように、活動紹介等上の学年から下の学年へアドバイスが送れるように考えていきたいと思えます。